

タイ・カセサート大学単位互換プログラム報告書(9・10月)

獣医学群獣医学類 5 年 松井瑞嬉

カセサート大学カンペンセンキャンパスでの暮らしが 1 か月半を過ぎようとしています
が、この間様々なことを感じ、学ぶことができました。

○感じたこと、学んだこと

・ある学問やある知識を学ぼうと思った時、その国でしか学べないこと、その場所でしか学べないこと、その人からしか学べないことがあるのだと実感しました。カセサート大学留学の 1 週目は「swine unit」でした。1 週間をかけて養豚場のマネジメントや豚の疾病、病理について学びました。酪農学園大学では豚の疾病については学びますが、マネジメントやその研究に関して深く学ぶ機会はありませんでした。また、日本はアフリカ豚熱が発生していませんがタイでは発生しています。実際にアフリカ豚熱が発生している地域での疾病対策やマネジメントに関する研究を学ぶことができました。カセサート大学への留学に行かなければ学ぶことができなかったことがあると実感し、今後自分が何かしらの学問についてもっと深く学びたいと思った時、ここに留まり学び続けていいのか？どこで学ぶ必要があるのか？誰から学ぶ必要があるのか？ということを考え、学びのためには躊躇せずに外に出ていきたいと思いました。

・swine unit の終了後はティラピア産業やエビ産業について学ぶ Aquatic animal unit での実習がありました。この実習では生産現場での生態学の重要性、自分の意見を支持するための理由と根拠を持つ重要性を感じました。ティラピアやエビの生産現場では、それらが本来どのような生息環境で暮らしているのかがとても重要になります。生産する生き物の生態が全ての基礎になっていると感じました。例えば水温、塩分濃度、餌の種類、餌を与える頻度、水の色などです。生き物の生態に合った環境というのを前提とした上で、最も良い生産効率を得られる飼育方法を組み合わせることが生産現場では重要だと感じました。日本の獣医大学では「生態学」を授業として学ぶことはあまりないと思いますが、生き物相手の仕事をしていく上でその生き物の生態を知っておくことはとても重要だと思いました。生態学という視点から、自分が扱う生き物を見ることを今後も大切にしていきたいです。

カセサート大学留学中は unit の最終日に、その週に学んだことをまとめた発表をします。私たちが発表した内容に対して Aquatic unit の先生からなぜそのような管理をする必要があるのか、そうするメリットは何かと聞かれました。私は養殖場の人に言われたことをそのまま受け入れスライドに記載して発表していただけたため、その質問に答えることができませんでした。この時先生に「自分の意見を支持するために理由と根拠をしっかり持つように」と全体で言われ、人にあることを教わったとしてもその内容をそのまま受け入れるのではなく、それに対して疑問を持つこと、自分が納得できる理由と根拠を自分で調べ、わ

からなければ人に聞くことの重要性を感じました。特に養殖場の人しかわからないことが多々あるので、その人に聞くべきことや疑問に感じたことを積極的に聞く重要性を感じました。今後仕事をする中でも、自分が調べてもわからないことは人に聞いていく姿勢は大切にしていきたいです。

・今回の留学では自分が学んでいる学問について、海外の先生や日本の学生と英語でディスカッションをする経験の楽しさを知ることができました。週の最後に行うプレゼンテーションの際には先生や学生からの質問があり、英語でお互いの国の状況についてディスカッションする機会があります。海外の人とディスカッションすると、今まで知らなかったことを知ることができ、それがとても楽しかったです。多国籍の人と有意義なディスカッションをするためにも、自分の国の状況について知っておくこと、もちろんですが英語が話せて聞き取れることの重要性を改めて感じました。私は日本でのインターンや実習で豚農場や養殖場に行ったことがあり、生態学についても少し学んだ経験がありました。そこでの経験が今回の留学で少し役に立ちました。普段から色々な分野に興味を持ち、足を踏み入れることは今後どこかで役に立つと実感しました。今後も自分の興味に従って行動していくこと、他の人の興味に対しても興味をもってみることは続けていきたいと感じました。また、今まで英語の論文を読む際に翻訳ツールに入れ翻訳された文を読んでいたのですが、それ続けると新しい単語を覚える機会を失ってしまい単語力の向上に繋がらないと感じました。そこで今は英語論文や英語のページを読む際には、まずわからない単語を調べ自分の研究や自分の興味分野についての英単語を積極的に覚えていこうと努力しています。

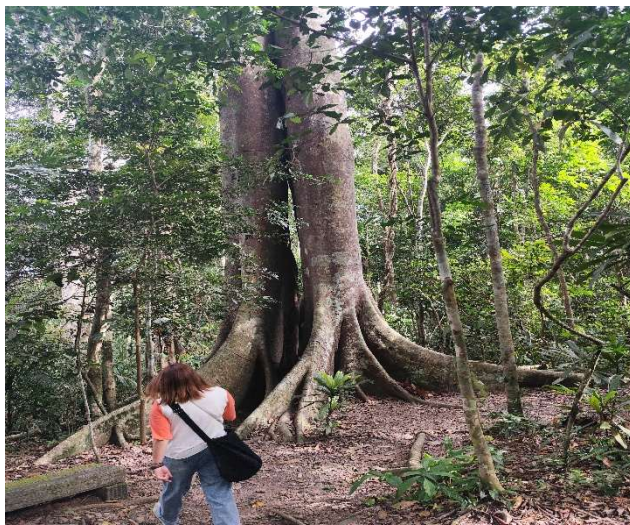
・大学生活とは離れた話になりますが、人間行こうと思えばいつでもどこへでも行けるのだなと感じました。金曜日は授業が午前中に終わるので金曜の午後と週末を利用し、タイ国内をみんなで旅行しました。出発前日に飛行機と電車とホテルを予約しチェンマイへ旅行に行った経験は、とても印象に残っています。気持ちと協力し合える仲間がいれば、どこにでも行けるという自信がついた経験でした。

日本への帰国が残り5週間となりました。日本への帰国も意識しつつ、タイでの学びを充実したものとなるように日々振り返りをしていきます。



【タイのご飯】

タイのご飯はイメージしていたよりもスパイシーで、辛い物が苦手な私は毎度「ノースパイシー」と伝えています。正直、日本のご飯が恋しいです。生野菜を毎日セブンイレブンで買って、朝ごはんを食べています。



【カオヤイ国立公園のトレッキング】

タイには国立公園がたくさんあります。カオヤイ国立公園はバンコクから近い位置にあり、みんなで遊びに行きました。左の写真はトレッキングコース内に合った木の写真です。樹木の根元が板状に発達した「板根」は、熱帯雨林で見られる特徴です。自然観察が好きなので、タイでしか見られない景色が見られてとても貴重な経験となりました。



【African spurred tortoise】

エキゾチックの授業内で、カメファームに行く機会がありました。タイでは様々な種類のカメをペットとして飼育する人が多く、動物病院には日々たくさんのかめが訪れます。

X線を撮り、ガスが溜まっていたカメには輸液をしていました。カメの皮下投与や筋肉内注射をする機会もありました。筋肉注射は腕の鱗をかき分け行います。保定するだけ一苦勞でした。